ちばのふるさと 満喫フェア
「サケ遡上の南限・栗山川編」

サケの遡上する南限の川といわれる栗山川に関連する市町が一体となり、11月1日、栗山川満喫フェアを多古道の駅「あじさい館」、あじさい公園を会場に行われました。

オープニングでは、森田県知事や来賓の方々がついたお餅を自ら来場者に振る舞ったほか、特別採捕許可を得ている栗山川漁業協同組合の協力により用意された特設いけすには、活きの良いサケが放たれ、水しぶきを上げて跳ねる迫力ある姿に、訪れた人たちが歓声を上げていました。

ほかにも、サケ料理やモツ煮込みの無料配布をはじめ、郷土料理・郷土芸能の紹介や農産物の販売も行われ、文字どおりサケのふるさと　栗山川を満喫できたイベントとなりました。

▲森田知事も来場

千葉県農業士に2名が認証

行木　達哉さん
（鳥喰上）

實川　勝之さん
（坂田）

町内で農畜産業を営む行木達哉さんと實川勝之さんが、11月10日に県知事から県農業士として認証されました。行木さんは酪農とアイスクリーム加工に、實川さんは果樹（なし）の栽培に取り組んでいます。

今回県内で18名が認証された農業士は、各地域の優れた青年農業者としてますますの活躍が期待されます。

梅の枝きり体験

快晴となった10月31日、坂田城跡梅林内で坂田城跡梅林組合主催の梅の枝きり体験が行われました。

町内外から多数の参加があり、山武農林振興センターの普及指導員から、実際の木を使って説明を受けた後、4ヶ所の畑に分かれ、体験が始まりました。組合員から「思いきり切っていいよ」とアドバイスされ、空に向かって伸びる若い枝や古い枝へ、慎重にはさみを入れていました。参加した女性グループは、「何よりも農家とのふれあいがとても楽しい」と、笑顔で語っていました。枝きりを行った木には参加者名のプレートがかけられ、2月に行われる梅まつりで観梅客に紹介されます。

学校給食で青年部会員と児童が交流

▲青年部会が地産地消を説明

▲ごぼう堀り

町農業振興会青年部会による学校給食交流事業が11月18日、大総、日吉、南条小学校で行われました。この日の給食には、青年部会が生産したごぼうと大根をはじめ、町内産の材料を使った豚汁が出され、青年部会員と児童が一緒に給食をとりながら青年部会員による地産地消・食育の説明や質問が行われ、児童との交流を深めました。

提供されたごぼうは、大総地区で同地区小学校1～3年生と大総保育所児童が参加したごぼうの収穫体験で採れたものです。